

熱中症予防啓発 取組事例集



令和4年7月
消防庁救急企画室

はじめに

これから本格的な夏に向けて気温が上昇していく中、全国的に熱中症の発生が懸念されており、各地域において、引き続き積極的な予防啓発を行っていただくことが望まれます。

そこで昨年に引き続き、全国の消防本部の皆様へ、情報共有を目的として、熱中症予防啓発に関する取組事例の提供を任意でお願いしたところ、多くの事例を提供していただきました。ご協力、誠にありがとうございました。

その中でも、以下の観点から、各消防本部において熱中症予防啓発を行うにあたり、特に参考になると考えた13の事例をご紹介します。今回ご紹介する内容も参考に、皆様の地域で熱中症予防啓発を推進していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

- ① 行政機関と連携して効果を上げている事例……………(P4～P8)
 - 1 釧路北部消防事務組合消防本部(北海道)
 - 2 千葉市消防局(千葉県)
 - 3 多治見市消防本部(岐阜県)
 - 4 豊田市消防本部(愛知県)
 - 5 宮古島市消防本部(沖縄県)

- ② 地域の事業所や企業等と連携して効果を上げている事例 ……(P10～P14)
 - 1 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部(秋田県)
 - 2 名古屋市消防局(愛知県)
 - 3 明石市消防局(兵庫県)
 - 4 山口市消防本部(山口県)

- ③ 動画や広報誌等の非対面型媒体を効果的に活用している事例……………(P16～P19)
 - 1 浜松市消防局(静岡県)
 - 2 大東四條畷消防本部(大阪府)
 - 3 上島町消防本部(愛媛県)
 - 4 日置市消防本部(鹿児島県)

① 行政機関と連携して効果を上げている事例

①-1 釧路北部消防事務組合消防本部(北海道)

【庁舎の防災用スピーカー等を活用した注意喚起】



<具体的内容>

これまで、町役場や消防署にある防災用スピーカー及び町内に設置しているサイレン塔を活用し、熱中症の注意喚起を行ってきたが、令和3年から、熱中症警戒アラートの発令日や気温が30℃へ上昇することが予測される日に、「本日は暑い日になります。熱中症に注意しましょう。」という注意喚起の放送を実施することとした。

<取組に至る経緯>

熱中症について、ここ数年は特に、メテオ等で取り上げられる機会が多い。また、北海道東部地方では、本州に比べると比較的涼しいが、暑さに慣れていない人が多いため、熱中症リスクを回避するための対策を講じる必要がある。

今回の取組は、消防職員からの提案により、各署の了解を得て、実施に至った。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

防災用スピーカーやサイレン塔の活用は、費用負担がなく、また、多くの市民へ一斉に注意喚起できる有効なツールであると考えます。

<コスト>

費用負担なし。

①-2 千葉市消防局(千葉県)

【市で運用するデジタルサイネージで「新しい生活様式での熱中症予防」を啓発】



<具体的内容>

千葉市関連施設 17 カ所 23 基設置されている市政情報モニター(デジタルサイネージ)で、全国消防イメージキャラクター「消太」や千葉市消防団 PR キャラクター「けしびろう」を使った新しい生活様式における熱中症予防をわかりやすく説明した約 20 秒の動画を放映した。

動画は令和 3 年 6 月 15 日から 8 月 31 日の間放映され、多くの方に見ていただくことができた。

<取組に至る経緯>

動画作成を職員が行い、市が運用するデジタルサイネージを活用すれば、放映する際に費用はかからず、市の施設を利用する市民に対して効果的な予防啓発が行えると考え、取組に至った。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

市が運用するコンテンツを積極的に活用する。

<コスト>

すべて自作のため費用負担なし。

①-3 多治見市消防本部(岐阜県)

【新型コロナウイルスワクチン集団接種会場における動画を活用した熱中症予防】



<具体的内容>

令和3年度に、熱中症予防広報動画「熱中症対策【アツいまち たじみ～夏を乗り切ろう～】」を作成した。作成にあたっては、新型コロナウイルス感染症予防の方法や熱中症警戒アラートについても触れ、現在の新生活様式にも対応するように工夫した。

令和3年6月29日から7月3日までのうち3日間、新型コロナウイルスワクチン集団接種会場の接種後待機場所において、消防職員が作成した動画を放映し、同会場では3日間で約900人が接種しており、熱中症の予防活動が有効に実施できたのではないかと考えている。

<取組に至る経緯>

令和2年度、心肺蘇生に関する動画を作成したところ反響が大きかったため、新たに熱中症予防啓発に関する動画を作成することとした。

新型コロナウイルスワクチン集団接種会場は公共の施設であったため、市役所と連携し、動画の放映に至った。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

市役所との連携や動画作成などを積極的に行った。

<コスト>

費用負担なし。

①-4 豊田市消防本部(愛知県)

【学習用タブレットを活用した、教育機関における熱中症予防に関する普及啓発】



<具体的内容>

小学生を対象に、朝の連絡会の時間を活用して「熱中症について」や「豊田市における熱中症に関するクイズ(搬送人員や対策)」等の、熱中症の予防に関する資料を学習用タブレットに配信し、普及啓発を行った。

<取組に至る経緯>

豊田市では、3年前に熱中症による小学生の死亡事故があり、それを契機に、豊田市役所及び教育機関における熱中症対策への意識が高まった。豊田市内の小学校では、コロナ禍において、全校で学習用タブレットを支給済みであり、「教育機関における熱中症予防」に活用したいと考え、消防本部から小学校へ提案し、今回の取組に至った。なお、「熱中症の予防」に関する資料は消防職員が作成した。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

コロナ禍において学習用タブレットを教材として導入している教育機関は全国的にあると思われる。教育機関と消防のどちらにもメリットがあることを強調することで、活用は可能と考える。

<コスト>

費用負担なし。

①-5 宮古島市消防本部(沖縄県)

【ケーブルテレビによる、地域の特性を踏まえた熱中症予防啓発動画配信】



<具体的内容>

自作の動画「熱中症に関する応急手当」を、市民向けに、地域のケーブルテレビ(行政チャンネル)で放映した。内容は、屋外で発症した熱中症傷病者への応急手当とし、「水分は少しずつこまめに補給」や「氷嚢などでの冷却方法」など具体的な対処法を紹介した。動画は、消防職員が出演・撮影し、編集は宮古島市役所の情報政策課が担当した。

<取組に至る経緯>

宮古島市では、直射日光が非常に強く、また、非常に暑いことから、農作業中に熱中症を発症する人が多い。そのため、地域の特性を考慮した、また、屋外での熱中症への対応方法について取り組む必要があると考え、動画の作成・放映に至った。

宮古島市役所の情報政策課とは、もともと「顔の見える関係」にあり、日頃から連携体制がとれている。そのため、ケーブルテレビの活用にも了承を得られた。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

熱中症について、様々な広報があるが、「地域の特性」を加味した内容にすると、市民にはより伝わりやすいものになると考える。

<コスト>

動画作成・編集の費用負担なし。ケーブルテレビの活用は費用負担なし。

**② 地域の事業所や企業等と連携して
効果を上げている事例**

②-1 大曲仙北広域市町村圏組合消防本部(秋田県)

【LP ガス協議会の協力で熱中症予防啓発を実施】



<具体的内容>

令和3年6月14日から、地域のLPガス配達員が、ボンベ交換作業時など日頃の業務で訪れている高齢者世帯に、消防本部で作成した熱中症予防に関するイラストが描かれたチラシを配布していただき、熱中症予防のポイントや夏場のマスク使用に関する説明をして熱中症予防の注意喚起を行った。

<取組に至る経緯>

地域のLPガス業者から、LPガス配達員によるボンベ交換作業時などで高齢者世帯に訪問する際に、熱中症予防の注意喚起をする取組の提案があった。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

地域の事業所と積極的に連携を図る。

<コスト>

チラシ1万枚制作費 15,463円

②-2 名古屋市消防局(愛知県)

【市が運営する大規模施設における熱中症広報】



<具体的内容>

市が運営する動物園の協力のもと、熱中症になりやすい人(高齢者、乳幼児等)や環境(気温や湿度が高い等)を示した資料を園内に掲示し、熱中症予防啓発を行った。また、園内トイレに尿の色で脱水状態をチェックできる尿チャートを掲示し、脱水に関する注意喚起を行った。

<取組に至る経緯>

幅広い年齢層に効果的な予防啓発を行うため、市が運営する動物園と連携を行った。また、来園した方々の中でも多くの方が利用するトイレに尿チャートを掲示することにより、目に触れる機会が多くなると考えた。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

市が運営する動物園は連携がとりやすく、また、尿チャートなど特徴的な要素を取組に入れることを意識した。

<コスト>

費用負担なし。

②-3 明石市消防局(兵庫県)

【商業施設の大型デジタルサイネージを活用した熱中症広報】



<具体的内容>

熱中症予防啓発の強化を目的として、令和3年8月1日(日)から31日(火)までの1か月間、駅前商業施設の大型デジタルサイネージで熱中症予防動画を繰り返し放映した。

この動画は、総務省消防庁提供コンテンツである「熱中症予防啓発ビデオやイラスト」を使用して作成したもので、全国消防イメージキャラクターの「消太」が駅前で熱中症予防を呼びかけた。

<取組に至る経緯>

デジタルサイネージを運用・管理している地元ケーブルテレビ局の協力で、駅のホームからよく見える位置に設置された大型デジタルサイネージを活用して、広報動画を放映できることとなったため、取組に至った。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

地元ケーブルテレビ局など、連携が期待できる事業所と積極的にコミュニケーションを図る。

<コスト>

地元ケーブルテレビ局の協力により費用負担なし。

②-4 山口市消防本部(山口県)

【地元サッカーチームと連携した熱中症啓発】



<具体的内容>

日本プロサッカーリーグ(J2)所属の地元サッカーチームと連携し、夏季期間中、山口市の維新みらいふスタジアムにて開催されるホームゲームにおいて、試合前やハーフタイムの時間にオーロラビジョンを活用した熱中症予防啓発動画(総務省消防庁)の放送を実施した。

<取組に至る経緯>

地元サッカーチーム、山口市及び地元の民間企業の間で連携協定が結ばれており、連携がとりやすい環境にあった。本取組については、消防本部からサッカーチームに声をかけ実現できた。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

普段から地元の団体と顔の見える関係を築き、連携をとりやすい環境を作る。

<コスト>

サッカーチームの協力により、放送料金等の費用負担はなし。

③ 動画や広報等の非対面型媒体を効果的に活用している事例

③-1 浜松市消防局(静岡県)

【SNS を利用した広報活動】



<具体的内容>

Facebook、Instagramをはじめ、浜松市の公式チャンネルを利用した YouTube による広報活動を行った。

また FM ラジオを利用し、地域住民に対して熱中症対策について呼びかけを行うとともに、浜松市の地域情報を発信するメールシステムを使用し、熱中症警戒アラートを活用した注意喚起を行った。

<取組に至る経緯>

SNS を利用した広報活動を検討した結果、消防音楽隊とコラボした動画を作成し公開。ラジオ番組の出演は例年行っている。

浜松市には「防災ホットメール」という市民に防災情報を送信するサービスがあり、行政の環境政策課と連携して熱中症警戒アラートに関する情報を情報配信サービスに組み込むこととした。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

SNS 等を積極的に利用する。

<コスト>

費用負担なし。

③-2 大東四條躰消防組合(大阪府)

【SNS等(ホームページやTwitter)を活用した広報の強化】



<具体的内容>

組合公式の YouTube チャンネルに、新しい生活様式における熱中症予防を市民の方にわかりやすく見ていただけるよう、消防職員の出演及び製作による関西弁で馴染みやすい漫才仕立てにしあげた動画をアップし、新しい広報としてご好評をいただいた。

消防組合ホームページへのリンク先

【～新しい生活様式における熱中症予防～】

<http://www.ds119.jp/syobo/syobo/news/1627541665186.html>

<取組に至る経緯>

消防本部内で SNS 等のインターネットを活用した広報活動を強化するため、所属職員に広くアイデアを募集したところ、本取組が提案された。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

動画を YouTube にアップロードする際に、出演している職員の意向を慎重に確認する必要がある。また、動画撮影時も市民に誤解を招かないよう、「広報動画撮影中」などのビブスを着用して撮影した。

<コスト>

撮影及び調整等も本組合の消防職員が行っているため、公費での費用負担はなし。

③-3 上島町消防本部(愛媛県)

【「広報かみじま」による熱中症予防広報】



第202号
2022年
7月

※環境省では冷房時の室温の目安を28℃としています。体調等を考慮しながら、冷やしすぎない室温管理を取り組む目安です。
「室温28℃」は冷房の設定温度ではありません。設定温度を28℃にしても室温が下がらない場合は、設定温度を下げるようにして下さい。

令和2年熱中症発生状況

発生場所	人数	割合
自宅内	7人	50%
農地等	3人	22%
工場等	2人	14%
道路	1人	7%
その他	1人	7%

発生場所別熱中症搬送人員

年齢区分別熱中症搬送人員

年齢区分	人数	割合
高齢者	10人	71%
成人	4人	29%

年齢区分別熱中症搬送人員

町内における熱中症の発生状況

上島町では、令和2年中に14人が熱中症で救急搬送されています。年齢別にみると、65歳以上の高齢者が10人で、全体の約7割を占めており、発生場所別にみると、約半数の7人が自宅内で熱中症になっています。室内での熱中症予防のために、エアコンを有効に活用して下さい。

コロナ禍の熱中症対策について

全国的に7月から9月にかけて、熱中症になりやすい季節となります。上島町は海に囲まれており、気温の上がりやすい日中は海から陸へ風が吹き、風通しが良く熱がこもりにくい特徴がありますが、毎年、熱中症による救急搬送事例が発生しています。昨年に引き続き、コロナ禍での熱中症対策が必要となりますので十分注意して下さい。

マスクの着用について

マスクの着用により、心拍数や呼吸数、体感温度が上昇するなど、身体に負担がかかることがあります。高温多湿といった環境下でのマスク着用は熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で周囲の人と十分な距離(少なくとも2メートル以上)が確保できる場合には、マスクを一時的にはずして休憩することも必要です。また、マスクを着用する場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心がけましょう。

<具体的内容>

上島町が発行している「広報かみじま」には、「消防だより」というページが毎月割り振られており、時期・状況に応じて、消防に関する行事や報告内容を掲載している。

令和3年7月号では、「コロナ禍の熱中症対策」について、上島町の気候に伴う熱中症の発生リスクや、町内における熱中症の発生状況を年齢区分別・発生場所別のグラフで示し、町民へ熱中症予防について広報した。また、マスク着用に伴う熱中症リスクの回避について周知した。

<取組に至る経緯>

「消防だより」というコーナーは、長きにわたり連載しており、熱中症に関する記事は、例年、7月号(又は6月号)に掲載している。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

日頃から顔のみえる関係があると、連携はスムーズ。お互いに大きなメリットである。

<コスト>

費用負担なし。

③-4 日置市消防本部(鹿児島県)

【日置市が発行する広報誌を活用した熱中症に関する注意喚起】

これからの季節、**熱中症**に気を付けよう！

高齢者の熱中症は
半数以上が自宅で発生！

令和2年(6月～9月)の熱中症による救急搬送状況

熱中症による全国の救急搬送人員累計 **64,869人**

年齢別割合 **約6割高齢者**〔65歳以上〕

発生場所別救急搬送人員 **住居**が最も多い。

エアコン・扇風機を使おう

体調に異変を感じた時は早めに休息を

「熱中症警戒アラート」発表時の予防行動！

熱中症警戒アラートは、熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境になると予想される日の前日夕方または当日早朝に都道府県ごとに発表されます。

- 1 外出はできるだけ控え、暑さを避けましょう。
- 2 熱中症のリスクが高い方に声掛けをしましょう。
- 3 普段以上に「熱中症予防行動」を実践しましょう。
- 4 外での運動は、原則、中止・延期をしましょう。
- 5 暑さ指数(WBGT)を確認しましょう。

※暑さ指数とは、熱中症の危険性を示す指数で、「危険」「厳重警戒」「警戒」「注意」「ほぼ安全」の5段階があります。

熱中症は日差しのある屋外よりも室内で発生しています。日頃から部屋の温度をこまめにチェックして、エアコンや扇風機を上手に使いましょう。

マスクを着けると皮膚から熱が逃げにくくなったり、気付かないうちに脱水になるなど、体温調整がしづらくなってしまいます。マスク着用時は、激しい運動を避け、こまめな水分補給をしましょう。

日置市 2021.6 14

<具体的内容>

日置市が発行する広報誌において、毎年、時期に応じた内容を掲載している。

令和3年6月号では、「これからの季節、熱中症に気を付けよう！」というテーマで、熱中症に関する注意喚起について掲載した。全国の熱中症による救急搬送人員に関して、年齢区分別では「高齢者」が約6割を占めることや、発生場所別では「住宅」が最も多いこと、また、コロナ禍において「マスク装着」による熱中症のリスクや熱中症警戒アラート発生時の予防行動等について記載している。

<取組に至る経緯>

日置市と連携がとれており、長きにわたり、例年、7月号(又は6月号)に熱中症に関する記事を掲載している。

<他の消防本部が同様の取組を行う際のアドバイス>

自治体等と日頃から連携していると、取組はスムーズに行える。

<コスト>

費用負担なし。

おわりに

このほかにも

- ・高齢者福祉施設にリーフレット等を配布
- ・消防車のスピーカーによる注意喚起
- ・熱中症予防啓発グッズの作成及び配布
- ・応急手当講習時に注意喚起

などの取組事例を提供していただきました。ご協力ありがとうございました。